

# 新学期から地元米給食

椎田で  
試食会



学校給食に使う新米を試食する参加者

椎田町の小、中学校計六校で、新学期の学校給食から町内で収穫した新米を使うことになり、同町の八津田小（田淵孝正校長）で二十九日、新米の試食会が行われた。

同町の学校給食で使う米は、これまで県学校給食会を通じて購入していたが、住民から「給食には地元の食材を使ってほしい」との声が上がりに、今年四月に農家や教育関係者らによる「町学校給食地場農産物利用促進協議会」が発足。町内の農家六軒に依頼して、給食用の米の栽培を始めた。

品種は「夢つくし」で、同町がし尿を再利用して生産している液状堆肥を使

い、約二秒で栽培。今月二十五日から収穫作業が始まった。農家が精米して、年間約十四・四トを各校に納入する。

試食会には、生産者や学校給食の調理員ら約五十人が参加。新米で作ったおにぎりを味わった。

また、液肥で育てた米の

愛称を公募したところ、同町が進めている循環型農業にちなんで、「シャンシャーン米『環』」に決まった。